

天王寺動物園の概要、現状と課題

天王寺動物園



展示の概況



天王寺動物園の基礎データ

- 開園: 1915年(大正4年)1月1日 現在101年目!
- 面積: 11ヘクタール
- 飼育動物: 合計213種1,057点(2016年3月末)

哺乳類	鳥類	は虫類	両生類	魚類	無脊椎動物	合計
59種	66種	57種	16種	14種	1種	213種
336点	441点	202点	77点	—	1点	1,057点



天王寺動物園の構成



北園	広い、サバンナ・ペンギン・肉食獣
南園	公園と連結　ゾウ・鳥・サル・クマ



天王寺動物園の略史

日本で3番目にできた歴史と実績のある動物園で、公共施設としての運営を行ってきたが、マスタープランとして作成したZOO21計画の進捗は大阪市の財政悪化で停滞。

- 創設期** 1915(T4)年～1925(T14)年 天王寺の地に大阪市立動物園が開園
大阪府立博物館附属動物檻の動物181点等の譲渡を受け開園、敷地は約2.6ha
- 発展期** 1926(S元)年～1936(S11)年 東洋一を目指した天王寺動物園
曲芸チンパンジー・リタの入園(S7年)、S9年入園者数250万人
- 混乱期** 1937(S12)年～1949(S24)年 戦時中の動物の犠牲と終戦後の静物園
猛獣処分や不十分な餌による動物の消耗
- 復興期** 1950(S25)年～1960(S35)年 戦後の復興と飼育コレクションの回復
ゾウやライオン等導入による飼育展示の復活、曲芸チンパンジー・シュジーの入園(S26年)
- 成長期** 1961(S36)年～1969(S44)年 近代的動物園の建設、動物園改造9ヵ年計画
無柵放養式展示による動物舎(クマ舎、ライオン舎など)の建設
- 躍動期** 1970(S45)年～1988(S63)年 活発化する国際交流と分類学的展示の工夫
海外との交流におけるゾウやキーウイなどの入園
- 醸成期** 1989(H元)年～2006(H18)年 ZOO21計画の策定と事業の展開
ZOO21計画の策定(1995(H7)年)と**生態的展示**施設の建設
- 改革期** 2007(H19)年～現在 大阪市の財政悪化
ZOO21計画に基づく施設整備事業の停滞、動物園改革の機運

レクリエーション性の重視
(動物園＝娯楽の場)

動物園の役割の見直し
(環境教育・種の保存)



展示方法の変遷

- ・ 分類学的な展示

系統分類の近い動物を並べて比較展示



<天王寺動物園ZOO21計画（1995～）>

- ・ 生態的な展示（無柵囲・放養）

生息地を再現して、動物と自然との関わりや自然な行動を展示



旧来の分類学的展示の例

サルヒヒ舎



サル舎



シシオザル



フサオマキザル



ドリル

ZOO21計画

ZOO21計画はマスタープランとして作成されたが、概ね施設整備計画として取り扱われた

ZOO21計画策定の背景

- 将来構想の必要性 ← 老朽化施設の計画的な建て替え
- 環境施設としての取り組み促進 ← 自然保護や環境問題への関心の高まり
 - 野生動物の保護 : 飼育下における生息域外保全、遺伝子多様性の確保、調査研究
 - 環境保護の啓発 : 環境認識の場の提供、科学的情報の提供
- 動物の快適性と健康福祉への留意
- 豊かな自然を有する身近なレクリエーションの場の提供 ← 周辺地域への貢献



ZOO21計画の概要

使命

天王寺動物園のめざすもの

さまざまな生態系を再現した空間の中で、動物と植物と人間の繋がりを自然に感じ、環境に関する諸問題に目を向け、考えるきっかけを与える動物園

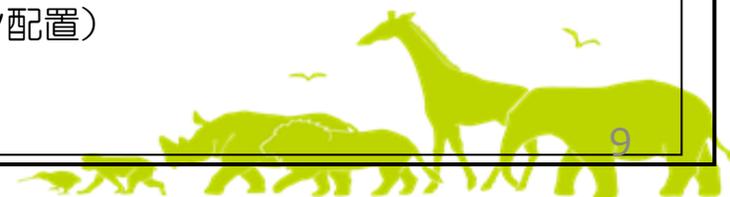
内容

計画の方針

- 展示の構成と内容（バイオーム展示、生態学・生物学的情報等の提供）
- 建築設備（残置施設設定、建設設備のあり方、運営普及の方向性、管理の考え方）
- 計画ガイドライン（空間配置、動線、展示、建築、園路、サイン、植栽、設備、利用者数想定）

基本計画

- 展示テーマとゾーン構成（全体ストーリー、展示テーマ、ゾーン配置）
- 動線計画（利用者動線、管理動線、緊急動線）
- 事業計画（事業スケジュール、事業費概算）



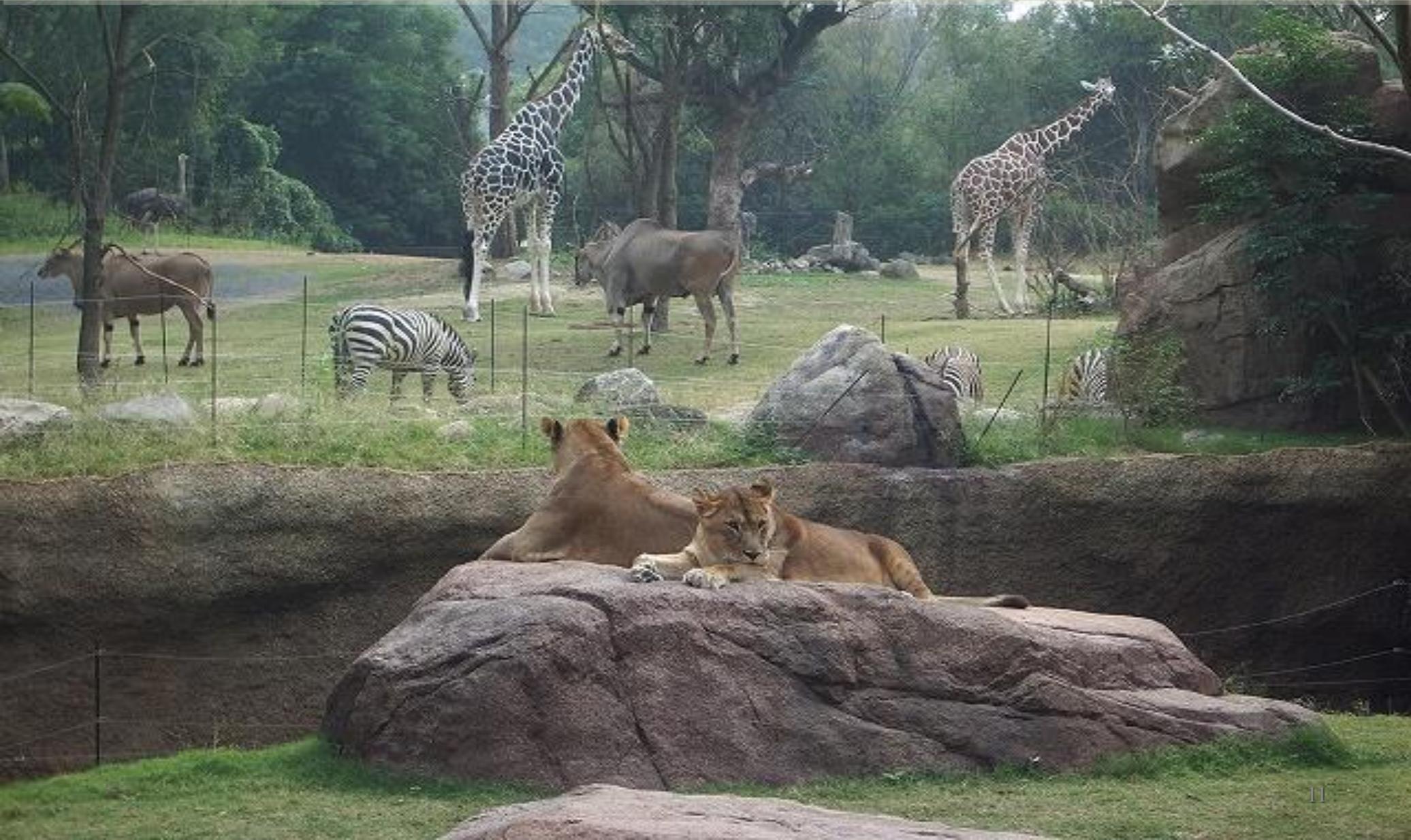
ZOO21計画に基づく施設

- 爬虫類生態館「アイフアー」
- アフリカサバンナ草食動物ゾーン
 - カバ舎、サイ舎
 - コフラミンゴ、コビトマングース
 - キリン、シマウマ、エランドなどの混合展示
- アジアの熱帯雨林ゾーン（ゾウ舎）
- アフリカサバンナ肉食動物ゾーン
 - ライオン、ブチハイエナ、ケープハイラックスなど

都心で楽しむ野生動物たちの国々への小旅行



サバンナゾーンのパンorama



アジアの熱帯雨林・ゾウ舎



整備された施設の配置



課題：新旧獣舎の落差、統一感の欠如

動物園改革への動き



動物園改革の経緯

- H24.11 上山特別顧問が来園し厳しい指摘
「まるでソ連末期の場末動物園」
「今やるべきは大規模投資ではなく、美化、修繕、顧客目線でのサービス改善」
- ~H25.8 市内部に「天王寺動物園あり方検討チーム」を設け検討
→ 『ZOO 2 1 計画』をリセットし、新たな戦略策定へ
- H25.12~ 動物園改革担当部長を公募
→ H26.7着任
- H26.10~27.3 コレクションプランを検討する有識者会議開催（併せて動物園の今後の方向性も議論）
- H27.8 天王寺動物園基本構想とりまとめ
- H28.7 天王寺動物園『1 0 1 計画』（素案）とりまとめ



周辺の環境の変化

【通天閣】入場者数

約71万人(H14年度)→約132万人(H24年度)

【大阪市立美術館】

- ・「大阪の伝統・文化の継承装置」としての実績を活かす
- ・本館建物の改修・再生
- ・新棟(サービスWING)増設
- ・慶沢園の一体的な管理・運営

【天王寺公園】

- ・無料化
 - ・施設整備
 - ・民間活力の導入(てんしば)
- H24 → H27.10~H28.7(10ヶ月)
129万人 350万人

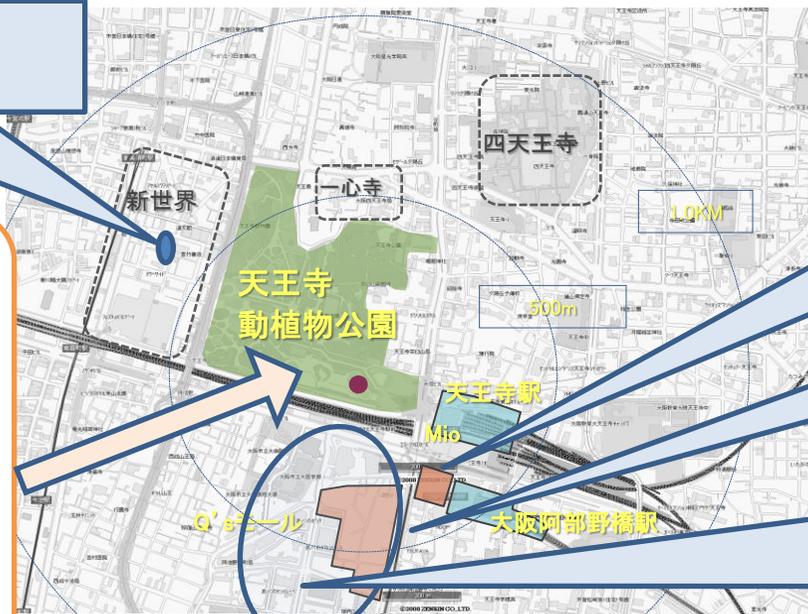
天王寺区の人口

推計人口 72,187人(H24.10.1)
人口増加数 +1,373人(H23.10.1→H24.10.1)【24区中4位】
人口増加率 +1.9%(H23.10.1→H24.10.1)【24区中4位】
年少人口(0~14歳)割合 12.7%(H24.10.1)【24区中5位】

2013年分の土地の路線価(1月1日時点)について、前年からの上昇率で全国1位、3位
全国1位:35.1%(あべのハルカス前) 全国2位:17.4%(大阪新阪急ホテル前) 全国3位:10.4%(JR天王寺駅前)

活性化により注目を浴びる刺激的な施設・エリアに囲まれている

周辺地域が注目を浴びる今こそ、新たな動物園として
再出発する絶好のチャンス



【あべのハルカス】

地上300m、日本一の超高層ビル
H26年春全面開業
来場者数約4,740万人/年(見込)

【あべのキューズモール】

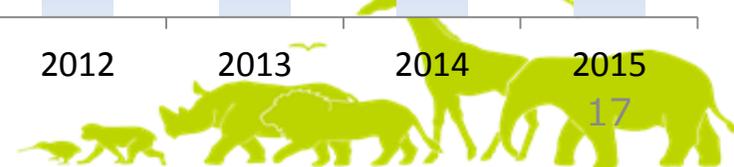
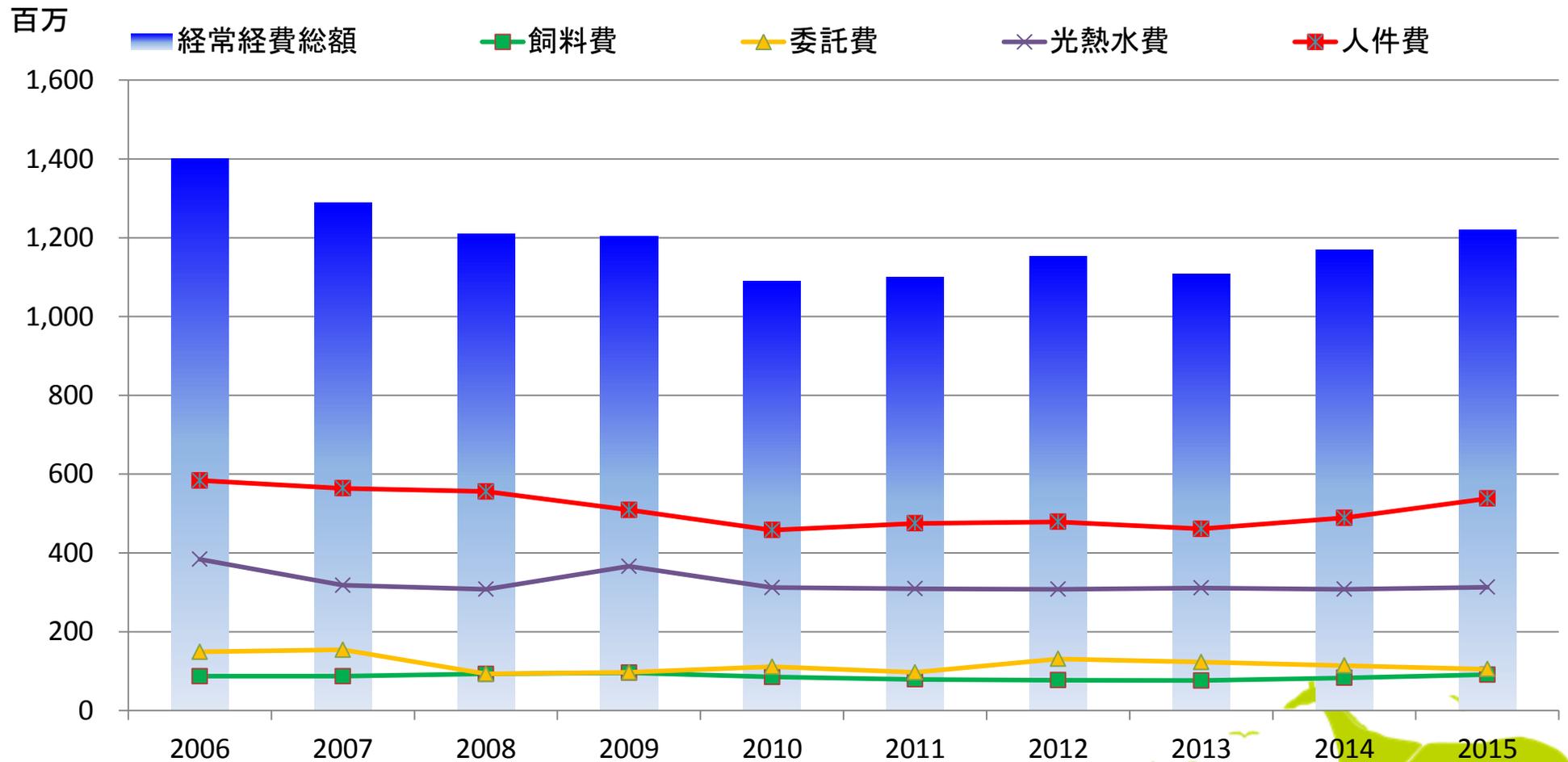
H23年4月開業
来館者数約2,700万人/年
(初年度、2年目とも)

【阿倍野再開発事業】

- 各施設が完成し、事業収束へ
 - ・建築物(29棟) H24年度末
 - ・阿倍野歩道橋 H25年4月
 - ・幹線道路整備 H27年度末
- 阿倍野筋(幅24m→40m)
国道25号(幅25m→40m)

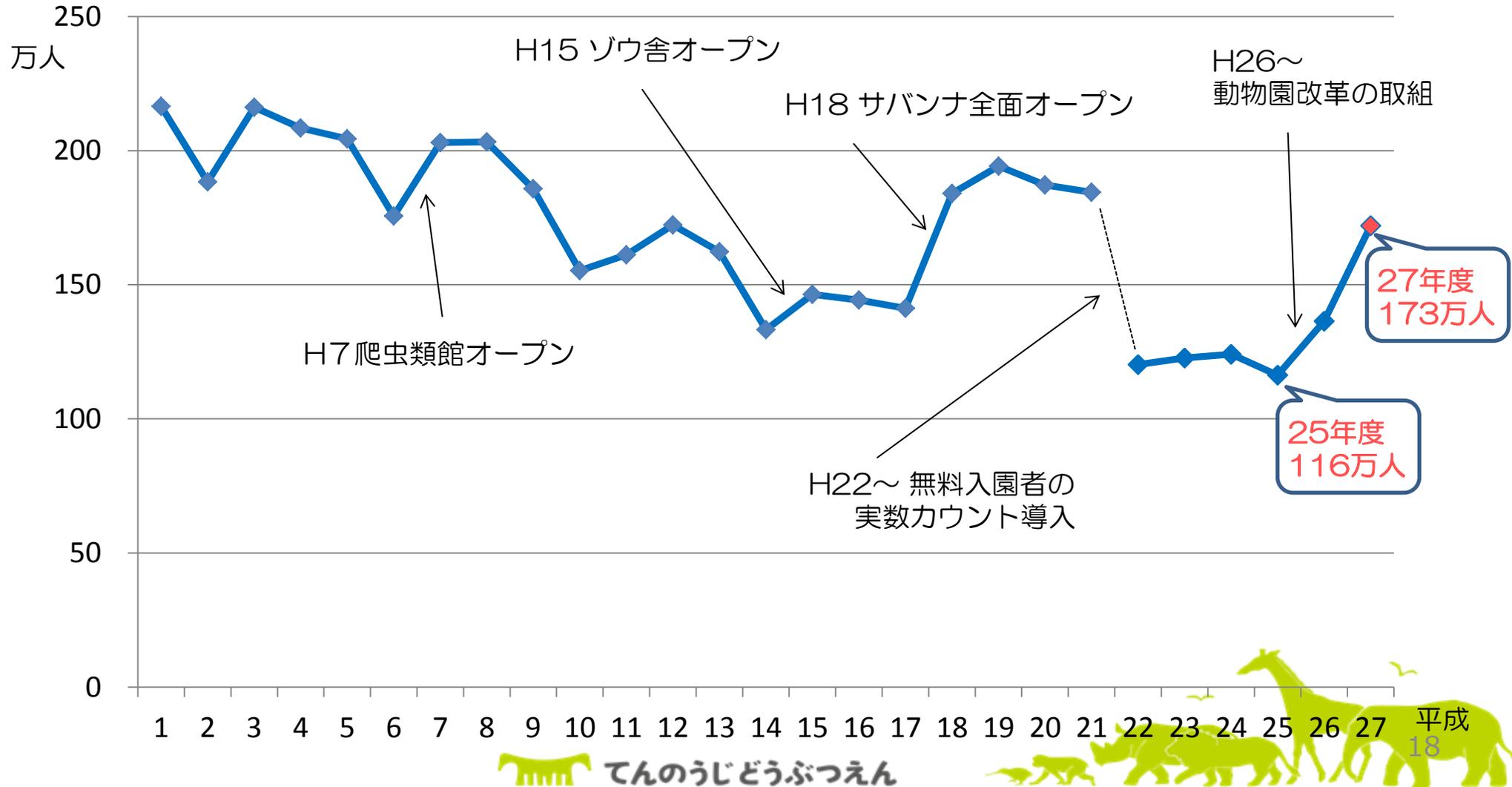
経常経費の推移

経常経費は継続的に削減してきているが、その内訳は人件費、光熱費（変動要因ではあるが効率化努力での削減には限界あり）など、実質的に固定費的な要素が多い



入園者数の推移

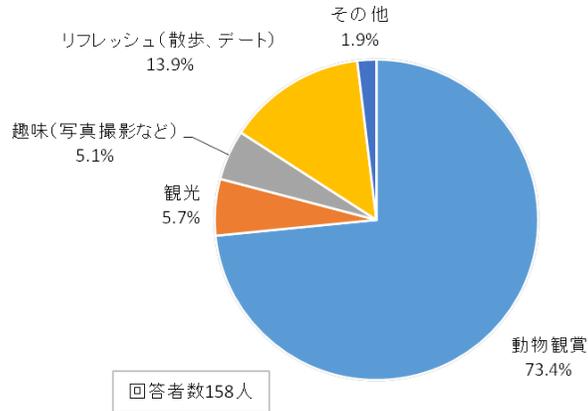
入園者数は、動物園改革の取組みを進めるまでは、全国的な傾向と同様、漸減傾向にあったが、改善活動の効果等によって、来園者数は増加傾向にある。



来園者動向

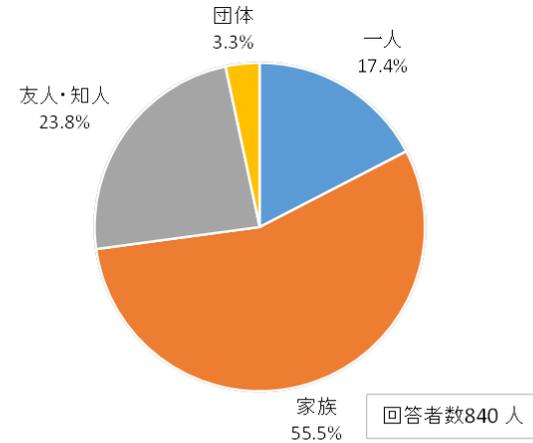
○来園目的

動物鑑賞が73.4%と最も多く、次いでリフレッシュ13.9%、観光、趣味がそれぞれ5%台。



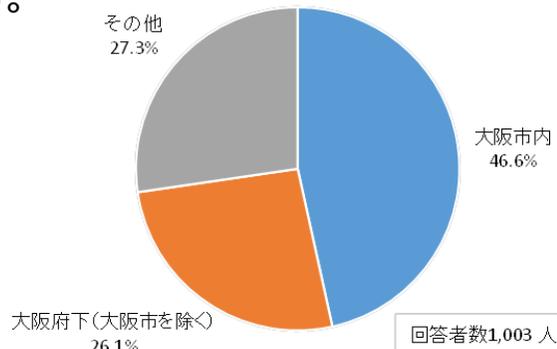
○誰と来たか

家族での来園が55.5%で最も多く、次いで友人・知人の23.8%と複数での来園パターンが多い。



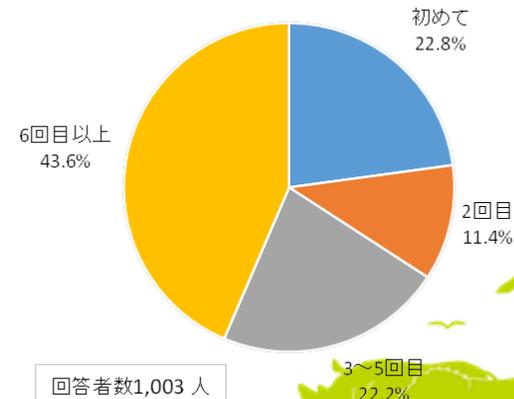
○来園者の居住地

大阪市内が約半数、大阪市内を除く府下とその他が残りの半数と、市民以外からも広く利用されている。



○来園頻度

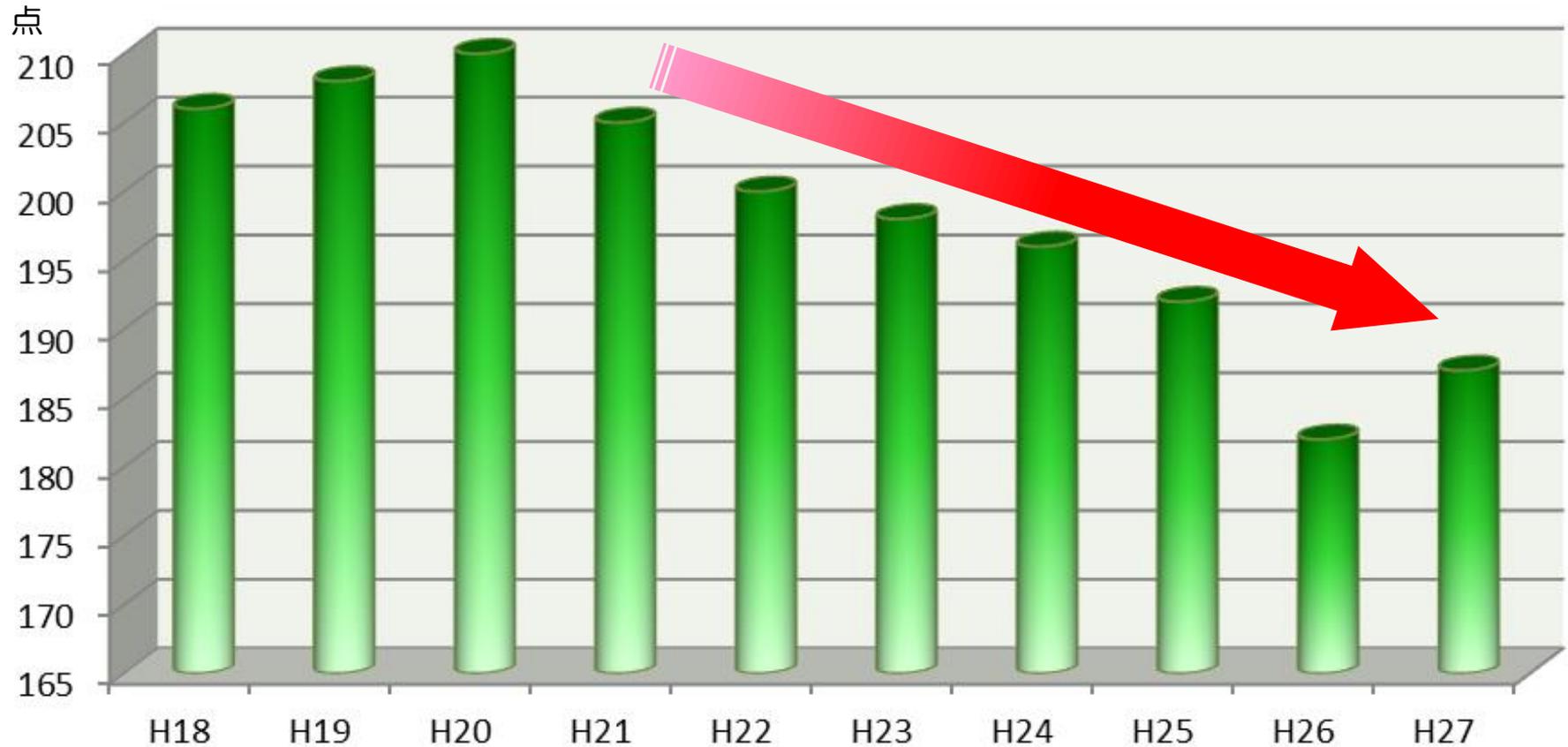
初めて以外が約8割とリピーターが多くを占めている。



飼育種数の推移

野生動物の取引規制の強化など、新規動物の入手が困難となってきたなか、飼育動物の種数は減少傾向にあり、主体的にコントロールすることが課題となっている。

飼育種数の推移



高齢動物の飼育状況

高齢動物を多数飼育しており飼育技術は高い。一方で、飼育動物の継続的確保が課題

動物種名	平成25年度		平成28年度		最高齢※3
	個体数※1	年齢構成※2	個体数※1	年齢構成※2	
コアラ	3	22 X ,20 X ,17 X	1	9	23
アジアゾウ	2	65 X ,44	1	47	69
アムールトラ	2	16 X ,10	2	13,4	22
カバ	2	29,14	2	32,17	49
カリフォルニアアシカ	7	27~0	9	30~1	30
クロサイ	2	41 X ,30	3	33,5,2	50
グラントシマウマ	3	21,19,5	3	24,22,8	30
フランソワルトン	3	29 X ,25,11	2	28,14	30
コンドル	2	35,33	2	38,36	56
タンチョウ	3	39,29,7	3	42,32,10	42
チリーフラミンゴ	30	39~6	28	42~2	42
フンボルトペンギン	22	19~0	25	23~2	44

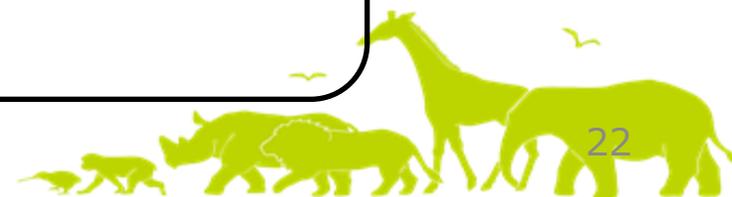
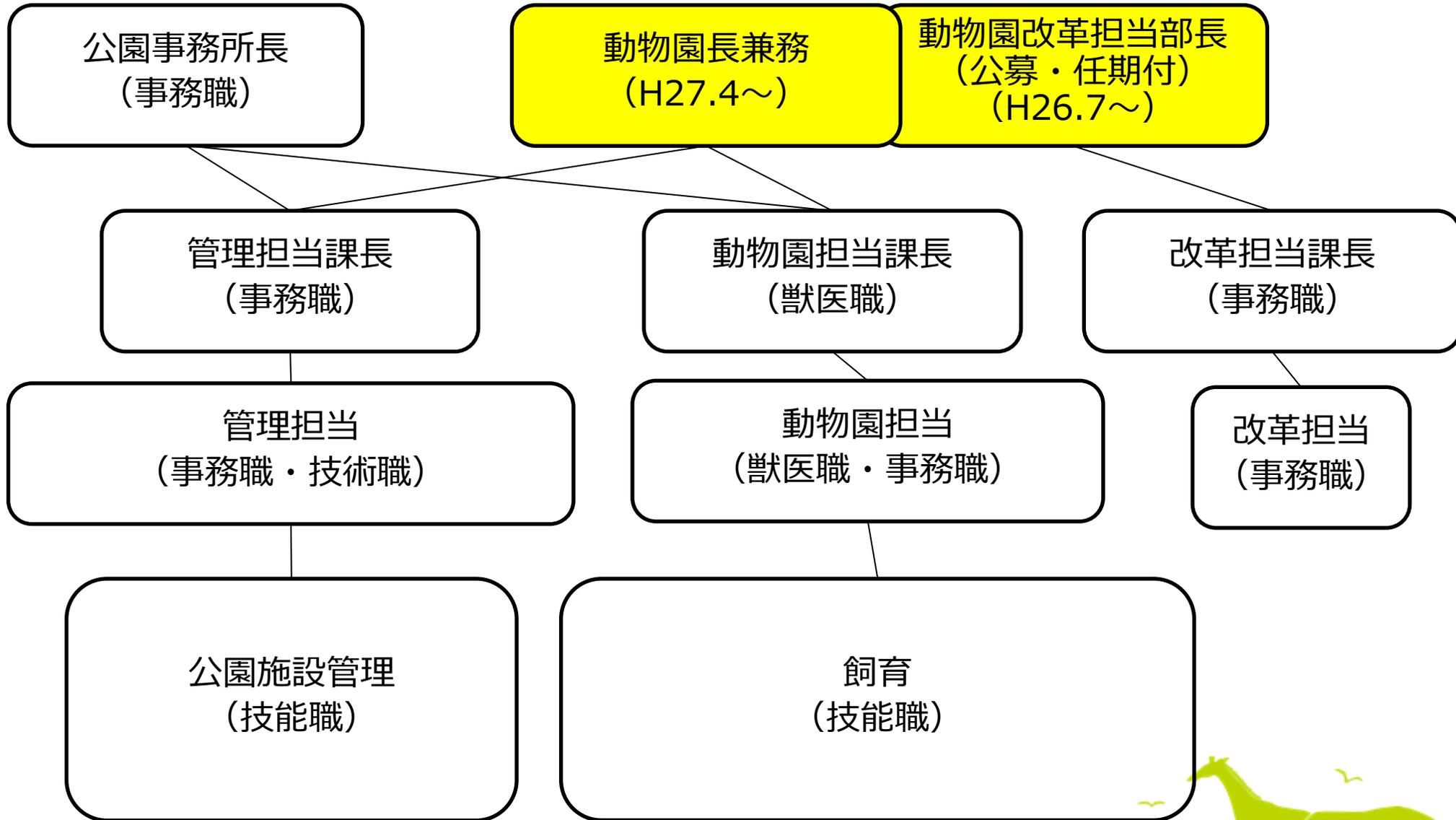
※1 : 現在の飼育個体数

※2 : 現在の飼育個体の年齢構成

※3 : 国内での最高齢記録



天王寺動物園の組織



改革プラン

- 中長期のプランニングと目の前の地道な改善とを両輪で実施
- 中長期のプランニングにおいて、基本構想、基本計画（施設整備計画や収支・体制のあり方を含む）を策定
- 目の前の改善については、ひとつひとつ実施をしていくことで成功体験を得つつ、構造要因を解決して、戦える組織に改革
- 並行して、動物園に適した経営形態の検討を進める。



平成26・27年度の主な取組み

(動物園の魅力向上と発信)

- 展示の魅力アップ（行動を引き出す工夫、説明パネルの強化など）
- 人気動物の導入（蓬菜の寄付によるホッキョクグマ導入、ドイツからクロサイ導入）
- ナイトズーの開催（H27夏は9日間で13万人、H28夏は10日間で12万人集客）
（※照明整備費用は大阪府と折半）
- ふれあい広場の設置（平成27年10月）
- 関係機関の協力によるプロモーション（例：市営地下鉄でのアナウンス、動物園列車）
- てんしばゲート設置、公園内サイン表示のリニューアル&多言語化

(園内でのお客様の快適さ向上)

- 園路やトイレを逐次改修
- 美装化チームを設置し、手すり等を短期集中的に補修
- CS向上のための改善活動（若手中堅職員によるCSリーダー制度の導入、ディズニー研修、事務所内にCS担当を配置）
- 新ユニフォームの導入（平成27年11月）

(将来の発展に向けた活動)

- 動物園基本構想及びコレクションプランの策定（平成27年8月）
- 100周年記念シンポジウム（平成27年10月）→アジアトップ動物園（香港、台北等）との交流推進



様々な取り組みの実践



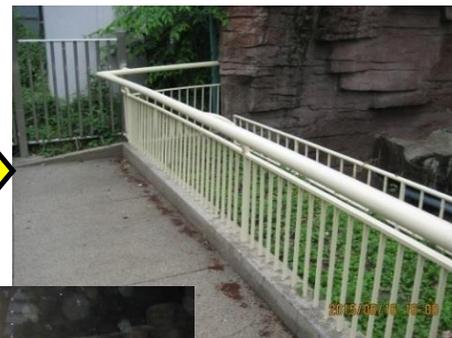
給餌の工夫(カバ)



ナイトズーの初開催



パネルの工夫(ムフロン)



園内の集中的な美装化



企業とのコラボ
(藤原製麺とのコラボ)

国際的な取り組み

国際的にも第一級の動物園となることを目指して、国際的な動物園間交流を進めている。

- 香港、台湾、ソウル、マレーシアからゲストを招き、100周年記念アジア動物園シンポジウムを主催
(H27.10.24 @国際交流センター)
- WAZA（世界動物園水族館協会）総会への出席（H27.10.11-15日 @UAE）

→アジアの動物園間での繁殖協力についても議論



今後の課題

魅力向上

- ・老朽化施設を集客力ある施設に更新することが必要。
- ・飲食物販等のサービスの強化が必要。
- ・改善活動を組織に定着させることが必要。
- ・企画力、発信力の強化が必要。
- ・外国人観光客への対応の強化が必要。
- ・外部（例：大学、市民など）との協力の強化が必要。

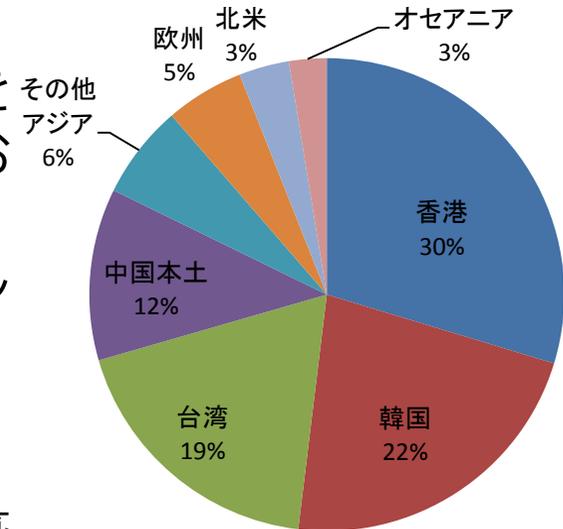
経営改革

- ・収支を改善し、公費負担率（現在6～7割）の削減を図っていくことが必要。特に、光熱水費がかさんでおり対策が必要
- ・運営の硬直性が大きい。今後、動物園運営にふさわしい経営形態の検討が必要。

専門機能

- ・飼育管理に係る技術力の向上が必要。
- ・動物入手のために、国際的な信頼の確保と関係の構築が必要。

外国人来園者の国・地域別比率



関西外国語大学調査（平成27年6～7月）

平成28年夏に「ZOO21計画」に代わる動物園の新基本計画
「天王寺動物園101計画（素案）」を取りまとめた